

市民参加の観点からの事業分析について（まとめ）

市民参加の先進都市である京都市において、市民参加をより一層進めるためには、市政運営のあらゆる場面で、市民参加の観点を取り入れることができないか、職員一人一人が常に意識することが重要です。

今回、市民参加推進フォーラムにおいて、市民参加の観点で特徴的な2つの事業について、その手法や効果の分析を行いました。

本資料は、その分析結果の中から、特に、他の所属においても、参考にさせていただきたいポイントについて、簡潔にまとめたものです。

この内容が、庁内で共有され、市民参加を進めるためのヒントや気づきとなることを期待しています。

なお、詳細については、本編に記載していますので、そちらもぜひ、お読みください。

<分析対象事業>

1 ～ICTを活用した市民協働による維持管理～「みっけ隊アプリケーション」

これまで市民参加の観点を取り入れにくかった土木管理分野において、事業の企画段階から市民参加型のワークショップを実施するなど、複数回に渡り、市民意見を直接聴き、市民ニーズを取り入れた。

2 景観市民会議

市の景観政策のPDCAサイクルがシステムとして構築されている中で、C（チェック）の段階において、公募により集まった市民による評価及び、課題抽出やその課題の改善に向けての意見交換が行われている。

<分析結果から見えた大切なポイント>

- 1 若手職員の前向きなアイデアや取組を尊重する
- 2 市民のことを信頼し、市にとってマイナスと思える情報も積極的に共有する
- 3 市民同士の交流、つながり、価値観の共有を生む場は、民間でも作れるが、行政がつくる場は、より安心できる場となる
- 4 市民と協働した事業推進は、職員のやりがいにつながる